

基本目標4 環境を守り育てるまち

個別目標4-1 地球にやさしく活動する

現状と課題

(地球温暖化の社会的問題)

- ・異常気象を招き、生態系に影響を及ぼしている地球温暖化は、一層深刻な問題となっており、これまで以上に社会全体で対応していくことが求められています。

(本市のCO2削減の状況)

- ・本市においても二酸化炭素排出量の削減は進んでおらず、家庭やオフィスを中心に取り組みを充実する必要があります。

(ごみ減量化の状況)

- ・家庭系のごみについては、ごみ袋の有料化や資源分別の仕組みが定着してきていますが、この数年、排出量は横ばいの状況が続いています。事業系のごみについては、排出量の削減が進み、目標を達成している状況にあります。
- ・さらなるごみの減量化に向けて、資源分別や再利用の徹底などごみをなるべく出さない生活を心がけていくことが重要となっています。

(美化活動について)

- ・まちの美化は身近な環境を良好に保つための基本であり、不法投棄やポイ捨てをなくし、ごみのない清潔なまちにすることが大切です。

取り組み方針

(環境配慮行動の基本スタンス)

- ・地球温暖化問題の解決に向け、誰もが地球にやさしく活動するよう意識啓発を行います。また、市においても環境に配慮した取り組みを率先して展開します。

(CO2排出量削減に向けた取り組み)

- ・民生家庭部門における二酸化炭素排出量の削減に向け、エネルギー消費の抑制など市民一人ひとりが取り組むことのできる対策を推進します。

(ごみ減量化、資源化の対策)

- ・3R（リユース、リデュース、リサイクル）の取り組みを進めるとともに、ごみ出しや分別のルールをさらに徹底し、ごみの減量化を一層促進します。また、可能な限りごみ焼却灰の資源化を図ります。

(美化活動の推進)

- ・不法投棄に対するパトロールの重点化など監視体制の強化を図るとともに、キャンペーン活動を通し市民や事業者とともに地域の美化を推進します。

めざす成果1

二酸化炭素の排出量が削減されている

省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用が図られ、二酸化炭素の排出量が減っています。

成果を計る主な指標			
指標名	現状値 (2012)	中間目標値 (2016)	目標値 (2018)
環境に配慮している人が多いと思う市民の割合	49.3%	〇〇%	〇〇%
1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量※の割合	108.2%	〇〇%	〇〇%

※市内におけるエネルギー供給量（推計）、ごみの焼却量、ガソリンの使用量により算出した数値であり、大和市地球温暖化対策実行計画に基づき算出された数値とは異なります。

主な取り組み

- ・二酸化炭素排出抑制の必要性や省エネルギーの方法について、キャンペーンや広報活動などを積極的に行います。また、市内の小・中学校における環境教育を実施します。
- ・家庭向け太陽光発電システムや太陽熱温水システムの設置費用の一部を助成します。
- ・市の公共施設において、より効果の高い太陽光発電システムを設置します。

めざす成果2

ごみの減量化、資源化が進んでいる

ごみの減量化、資源化が図られ、処理されるごみの量が減っています。また、ごみの収集や焼却処理、資源化処理が適正に行われています。

成果を計る主な指標			
指標名	現状値 (2012)	中間目標値 (2016)	目標値 (2018)
【変更】市民一人1日あたりのごみ排出量 * 事業系ごみ排出量は削除	456 g	〇〇 g	〇〇 g
リサイクル率	21.9%	〇〇%	〇〇%
【新規】ごみ焼却灰の資源化量	1,362 t	〇〇 t	〇〇 t

主な取り組み

- ・資源とごみの分別に関するパンフレットをより読みやすく分かりやすいものとし、転入者や外国人に周知を徹底します。
- ・ごみの戸別収集や粗大ごみの回収について、より遅滞なく確実に収集運搬を行います。
- ・資源回収における資源化品目の拡大に取り組みます。
- ・ごみ焼却灰については、処理にかかる費用や再生品の品質に配慮しながら資源化を拡大します。
- ・ごみ焼却炉の計画的な補修とともに、発生する熱エネルギーの効率的な活用を図ります。

めざす成果3

ごみのない清潔なまちが維持されている

市民が地域の美化活動に参加し、ごみのない清潔なまちで生活しています。

成果を計る主な指標

指標名	現状値 (2012)	中間目標値 (2016)	目標値 (2018)
【名称変更】美化推進月間クリーンキャンペーン参加者数	4,713人	〇〇人 	〇〇人 

主な取り組み

- ・「例月まち並み清掃」をはじめとする年間を通したクリーンキャンペーン活動を継続します。
- ・市内全域において、不法投棄及びポイ捨てのパトロールを行います。
- ・不法投棄の多い重点区域については、県と連携し、監視カメラの設置などにより監視体制を強化します。

基本目標 4 環境を守り育てるまち

個別目標 4-2 水や空気をきれいにする

現状と課題

(河川の状況)

- ・境川と引地川の水質は、比較的良好な水準を保っており、今後も引き続きこの水質を維持していく必要があります。

(下水道施設の状況)

- ・本市の下水道は、近隣他市に比べ早い時期から整備を進めてきたため、現在では高い人口普及率となっています。今後も、河川の水質維持のため下水道施設を適正に運営していくことが求められています。

(公害の状況)

- ・様々な環境基準の項目については改善してきていますが、野焼きや騒音などに対する苦情件数は減っていない状況にあります。

(放射線の影響)

- ・原子力発電所の事故にともなう放射性物質の監視については、本市においても継続的な対応が必要です。

取り組み方針

(河川の水質保持)

- ・生活排水による河川の汚濁防止や河川の水質維持に関する意識啓発を行います。

(下水道処理施設における対応)

- ・下水道のさらなる普及に取り組むとともに、汚水管、雨水管への誤接続を無くし、正しい下水道利用を推進します。
- ・下水道施設全体を適正に運営するとともに、耐震性の向上、省エネルギー対策などを考慮した下水道施設の長寿命化を進めます。(個別目標 3-1 参照)

(公害への対応)

- ・生活を脅かす環境要因を継続的に監視するとともに、公害苦情の実態などを踏まえた事業者等への指導、啓発の重点化に取り組みます。

(放射線対策)

- ・市内における放射線量を定期的に把握し、市民への的確な情報提供を行います。

めざす成果 1

河川の水質が向上している

生活排水などが適切に処理され、川の水がきれいになっています。

成果を計る主な指標			
指標名	現状値 (2012)	中間目標値 (2016)	目標値 (2018)
境川、引地川の生物化学的酸素要求量 (BOD)	境川 2.0mg/l	〇mg/l	〇mg/l
	引地川 1.2mg/l	〇mg/l	〇mg/l
水洗化率 (処理区域内における水洗化人口の割合)	98.0%	〇〇%	〇〇%

主な取り組み

- ・引地川での水に親しむイベントへの支援を行います。
- ・下水道ポスターコンクールを開催します。
- ・下水道施設の保全及び下水処理場の処理機能を保つため、特定事業場及び除外施設設置事業場の立入検査を実施します。
- ・下水道長寿命化計画を策定し、計画的に改築・更新を実施します。
- ・市街化区域全域の下水道整備を推進します。
- ・合併浄化槽への切り替えに際しその経費の一部を補助します。

めざす成果 2

生活を脅かす環境要因が改善されている

大気汚染や騒音、震動への対策が講じられ、良好な生活環境が守られています。

成果を計る主な指標			
指標名	現状値 (2012)	中間目標値 (2016)	目標値 (2018)
環境基準項目不適合率	7.0%	〇〇%	〇〇%
公害苦情件数	114 件	〇〇件	〇〇件

主な取り組み

- ・環境調査結果や環境法令の改正、公害苦情の実態などを踏まえ、事業者への適切な指導を実施します。
- ・野焼きや生活騒音に対する苦情については、状況を的確に把握したうえで必要に応じて対処します。
- ・事業者自らが環境保全に関する意識を高め、積極的に公害の未然防止に取り組むよう環境保全講習会を開催します。
- ・定点観測などによる放射線量の測定及び公表を定期的に行います。

基本目標 4 環境を守り育てるまち

個別目標 4-3 まちの緑を豊かにする

現状と課題

(緑の重要性)

- ・まちの緑は市民生活にうるおいをもたらし、地球温暖化の防止や自然環境の維持においても重要な役割を果たしています。

(市街化区域の緑)

- ・都市化による開発にともない市街地の緑地は減少しており、住環境をより良くしていくためにも、身近な緑を創出することが求められています。

(市街化調整区域の緑)

- ・市街化調整区域の大規模緑地については、市内に残されたまとまりのある緑として、また、市民の憩いの場として今後も引き続き保全していくことが求められています。

(農地の状況)

- ・農業生産者の高齢化や後継者不足などにより、耕作を続けることが難しくなっている農地が増えています。農地は、緑地としてだけでなく、防災上の機能など多面的な役割を持つことから、農地の保全に向け市民の理解を深めることが必要となっています。

取り組み方針

(市民団体との連携)

- ・緑化を推進する市民団体などの協力を得ながら、公園、道路など公共施設の緑化を推進します。

(身近な緑の創出)

- ・市民や事業者に対して、壁面や屋上を活用した緑化などについて情報提供を行い、身近な緑の創出を促します。

(市街化調整区域の緑への対応)

- ・大規模緑地については、所有者や近隣住民の理解のもとに長期的な保全を図りながら、市民の憩いの場として活用を進めていきます。

(農地への対策)

- ・農地が持つ機能に対する市民理解の醸成を図るとともに、農業者の協力を得ながら遊休農地の有効活用を推進し、農地の保全を図ります。(個別目標 7-2 参照)

めざす成果 1

緑地が保全され、まちの中の緑化が進んでいる

自然を感じることができる貴重な緑地が守られ、また、身近な緑が増えています。

成果を計る主な指標

指標名	現状値 (2012)	中間目標値 (2016)	目標値 (2018)
大和市には、緑や公園が多いと思う市民の割合	68.0%	〇〇%	〇〇%
民有地に設置された生垣延長(累計)	570m	〇〇m	〇〇m
保全を図っている緑地面積	90.0ha	〇〇ha	〇〇ha

主な取り組み

- ・緑化活動を行っている市民団体などに、花壇を整備するための資材や苗を提供します。
- ・緑への理解や親しみを醸成する「人生記念樹」「緑のカーテン教室」などの取り組みを推進します。
- ・保存樹林、保存生垣、保存樹木の指定などによる緑の保全を行います。
- ・市街化調整区域の大規模緑地について、緑地保全契約、用地買収等を効果的に組み合わせながら、より担保性の高い手法で保全を図ります。

めざす成果 2

身近な農地が大切にされている

都市農業への関心が高まり、農地が適正に保全、活用されています。

成果を計る主な指標

指標名	現状値 (2012)	中間目標値 (2016)	目標値 (2018)
農用地の利用権設定面積	4.4ha	〇〇ha	〇〇ha
市民農園応募者数 区画数 【指標変更】	863 区画	〇〇区画	〇〇区画

主な取り組み

- ・市民農園として遊休農地の活用を推進し、需要に見合った区画の提供に努めます。
- ・観光花農園などにより市民の農地に対する理解を深める活動を充実します。
- ・生産緑地の所有者等に対し、管理上の指導及び助言を行います。